

市民フォーラムの基調講演について

○基調講演 「修善寺ゆかりの近代日本画 巨匠たちの青春」

○講 師 東京藝術大学大学美術館 古田 亮 准教授

準備委員会の委員でもあり、近代日本美術史に造詣の深い古田氏より5つの魅力を中心に、映像を交え作品が持つ魅力や価値について市民に紹介された。

- ①近代日本画を代表する「巨匠」たちが、若いころ、何故修善寺温泉に集いその作品が今残されているか？その理由が作品の価値を高めている。
- ②新井旅館3代目当主相原貫太郎（沐芳）」と安田靉彦（病弱で温泉で療養）を中心とする人と人とのつながり・人間ドラマにより、「自然に形成された作品群」である。このことは、歴史的にも地域的にも非常に貴重である。
- ③近代日本画が最も「熱かった時代・輝かしかった時代」を背景に、西洋文化に負けないよう「朦朧体」という特徴による「日本画の創造」しようと、修善寺温泉の交流を通じて、画家たちが切磋琢磨した時代背景の中での作品群。それは、「時代そのものを切り取る面白さ」として「生きいきとして活気がある作品」が集まっていることも魅力である。
- ④質の高い作品は、見る人に感動を与え、文化を育てる。400年前の俵屋宗達の作品展を通じ、画家や芸術家が刺激を受け成長するように。そのためには作品を展示する良好な環境と作品を大切に保存しなければならない。
- ⑤こうした魅力あふれる作品が、ただ保存されるだけでは意味がなく、作品の魅力を「次代に繋ぐ」ことが大切である。伊豆市民として、この作品の魅力を次世代・子どもたちに伝承するために「環境の良いところ」に「良い保存状態」が保てる「美術館」の建設は義務であるとも言える。子どもたちは、作品の魅力を

「美術館」で学び、刺激を受け、人間の成長にも寄与しうるもの。



パネルディスカッション発言者要旨 (建設準備委員からの意見を記載)

No	発言要旨
美術館の必要性	<p>寄贈された多くの美術作品を市民の宝として後世に伝える「館」が必要であり、それは より良い環境で 見る「場」があってはじめて意味をなす。</p>
	<p>美術館は、どのような場所にも必ず必要、という施設ではない。 核になるコレクションの存在や、新設される美術館での活動についての地域からのご理解等、ニーズがあってこそその美術館です。 幸い、伊豆市には、旧修善寺町以来の美術品も受け継がれており、多くの美術館から借用依頼が続いていると聞きます。市民が誇るべき作品を正しく管理し、後世に伝えていくためにも、適切な美術館での(作品)の管理が必要だと思います。</p>
	<p>旧修善寺町時代に相原家より寄贈受けた近代日本画作品を核とするコレクションは、現在近代日本画の巨匠と呼ばれる画家たちの若い頃に描かれた貴重な作品群で、その美術的・文化的な価値は高く、観光資源とも成り得るものを、他館展覧会への貸出だけで始終しては死蔵と同じ。寄贈時に進められていた美術館建設を早く実現し、恒久的な保存・展示をしていかなければならない。</p>
	<p>伊豆市では百数十点もの芸術作品を所蔵し管理していると聞きます。以前は、修善寺総合会館で展示をし、時々鑑賞に出かけましたが、今ではその場所もなく、他の美術館の企画展に貸し出すばかりです。市外で伊豆市の所蔵する美術作品を鑑賞していただくばかりではなく、伊豆市で展示して、市民はもとより様々な方々に伊豆市に訪れていただき、鑑賞してもらってもいいのではないかと。伊豆市で展示する意味は大きいと思います。</p>
美術館が果たすべき役割	<p>ヒトとモノとが会う場所を提供することです。</p>
	<p>美術展示品が美術展示品を呼ぶ。この作品があるからこの作品を呼ぶことができると思う。3つの役割を担います。 第1に、美術館は美術品を保存し、そして公開していくのが役割です。美術館の所蔵品だけではなく、伊豆市には、指定未指定を問わず、多くの文化財や美術品があるでしょう。それらを大事に保っていくためにも、専門家を擁する美術館という施設は重要です。 第2に、美術館は、既に所蔵している美術品だけではなく、これから作られる美術品のためにも役立ちます。同時代を生きる作家が、縁有って伊豆市で作品を制作することもあるでしょう。アートイベントのようなものかもしれませんし、滞在して制作に取り組むこともあり得ます。それらは伊豆市の皆さんにとって、より身近なものになるかもしれません。 第3に、美術館は、皆さん自身が美術と関わるための場所です。関わり方は色々。ご自分の趣味や勉強として作品を鑑賞するもよし、誰かを案内するもよし、あるいはボランティアや友の会等で、運営に関わることもできるのかもしれない。</p>

<p>美術館が果たすべき役割</p>	<p>美術作品やそれに関わる資料・情報を集め、保存・研究・公開を通して、未来の世代に伝えていく役割を基本的に担うべき施設で、コレクションの展示公開活動及びそれに付随する教育普及活動などを通して、地域社会と連携していくこと、つまり、市民との交流を大切にしながら共に文化創造を実現していく拠点となることが使命です。</p> <p>文化芸術作品や遺産の収集・保管・展示が一般的な美術館の役割と習いました。</p> <p>市民が芸術への関心意欲を高め、理解される教養が高まれば…。市民に限らず多くの人たちに伊豆市所蔵の芸術作品を知ってもらうことも大切かと思えます。観光資源としての役割を果たしても良いように思います。</p>
<p>身近な美術館とは</p>	<p>「私の」美術館と感じさせる場所にすること。市民が育てていく美術館になること。</p> <p>美術館とは色々な関わり方があると思います。皆さんが「どのようにしたいか」によって、様子は変わります。こうしたフォーラムの場等を通して、どのような美術館がいいのか、どんな場所であって欲しいのか、皆さんのご意見をお聞かせ頂くことが関わりの第一歩です。</p> <p>今日来場している皆さんは、美術館との関わりを、もう始めて下さっているのです。</p> <p>一例をいえば、単に芸術性の高い美術品に触れるだけでなく、その建築-空間や静かな庭園、その環境に適したカフェやミュージアムショップなど、収蔵美術品を中心として市民が気軽にアート空間を楽しむこともできるような施設。家族と行きたいと思えるような美術館。市民が行きたくない美術館は、他市町の人も行きたいとは思わない。</p> <p>一度鑑賞したら終わりではなく、興味ある企画展が度々催され、常に行ってみたいという気持ちにさせられる美術館が身近に感じます。</p> <p>市民が誇れる。親しめるような美術館が良いと感じる。</p>
<p>美術館の構造</p>	<p>美術館は作品を大事に保存する場所であり、作品をお客様にご覧頂く場所です。</p> <p>作品の安全を確保するためには、色々とお気をつけなければなりません。泥棒に入られないような、しっかりとした警備は大前提です。</p> <p>さらに、温度や湿度を、年間を通じて一定にできるような空調施設が必要です。湿気や温度の変化にさらされると、作品は簡単に壊れてしまいます。一度壊れてしまった作品は、たとえ修理が出来たとしても、元に戻ることはないのです。</p> <p>さらに、作品を正しく管理するためには、作品を保管するための収蔵庫や、調査のための資料を置く部屋等々が必要です。</p> <p>つまり、美術館の建物では、お客様がご覧になる部屋だけではなく、作品を管理するためのバックヤードが、かなりの部分を占めます。その裏付けがあるからこそ、他の美術館や博物</p>

	<p>館は、安心して資料を貸してくれます。そうなれば、色々な展覧会を企画することもできます。伊豆市の皆さんが、他の地域から借りてきた作品を見ることが可能になるのです。</p>
美術館の構造	<p>運営側としては、作品を中心に据え、恒久的な保存・展示が実現できる構造、鑑賞者側にとっては観る・学ぶ・体験することを基本として実現できる構造。</p> <p>身の丈にあった美術館を設立するのが大切・自然豊かな伊豆市の温泉場に大きな美術館がある方がイメージ化しやすい。</p> <p>展示室（企画展示室）・市民ギャラリー・保管管理室など。市民ギャラリーのように、市民の作品の展示や個展、また児童生徒の作品が展示できるようなスペースがあると一般が足を運びやすいように思います。</p>
美術館の機能	<p>所蔵品の保管と展示、そして研究の場にもなる。</p> <p>「美術館が果たす役割について」で挙げた3つの役割、「保存」「現代の美術活動」「技術の体験」を十分に果たすような機能が必要である。</p> <p>美術館の構造は、どのような機能実現するかによってきまるので、運営者側・鑑賞者側の実現項目を基本とした機能を備えたもの。ということになります。</p> <p>単なる展示のみではなく、講演会やギャラリートーク、ワークショップなど美術作品を理解するような場の設定や機能があるとありがたいです。日本画については、画材や描き方について（日本人でありながら）あまり知られていないように感じます。日本画の制作方法や歴史などについても学べる、あるいは知る場があると良いように思います。</p>
必要な部屋	<p>展示室、収蔵庫、荷解き場、写真撮影室、本や資料を置いておく部屋、実技室、お客様が資料や美術情報を自由に得られる部屋、バックヤード、ミュージアムショップなど。美術館の周囲に飲食店が多々あるなら、館内には不要でしょう。</p> <p>所蔵するコレクションに適合した展示空間。最大級の所蔵作品（今村紫紅：鷲）も展示できる大きさ。</p> <p>作品の多くは沐芳氏の寄贈による作品です。しかも、有名な日本画家の若い頃の作品です。沐芳氏によって多くの日本画家が育てられました。その遺志を継ぐならば、その美術館で日本画に限らず公募展が実施され、多くの若手の芸術家を発掘し育てられたら素晴らしいと思います。教育関係者の視点では、「市民ギャラリー」みたいなものがあるとすごくうれしい。市民の作品や古典など、あるいは子どもたちの作品が展示できるようなことができれば大変うれしい。</p>
運営方法	<p>公設美術館の運営は、自治体が直接運営するやり方、別の法人が運営するやり方、会社等に業務を委託するやり方等、色々なものがあります。</p> <p>個人的には、自治体が直営する仕方が、最も望ましいと思っています。</p> <p>美術館は元々、大きな収入につながるような施設ではなく、だからこそ公が費用を出して、</p>

運営方法	みんなのためになることをやる訳です。
	自治体運営、指定管理者制度での運営、財団化した運営いずれにしてもメリット・デメリットはあります。
	市営美術館。学芸員の方を中心として企画・展示・運営でしょうか。 どんな仕事があるのか整理して、ボランティアの方が多く加わってくると良いと思います。何か、伊豆市の美術館としての特徴があるといいと思います。具体的なアイディアは今の時点ではありません。
準備	上記の美術館使命を担う近代日本画を専門とする専門職学芸員を招致し、建設関係業務に参加してもらう

「伊豆市美術館建設に向けた市民フォーラム」 市民からの意見

- ・美術館は必要であるが、将来に負担を残さないようにしてほしい。
- ・必要である以上に必要。沐芳氏が集めた作品は寄贈を受けた修善寺町が大事にするということでもいただいたもの。
- ・新井旅館の近くに建設することが重要。
- ・市所蔵の作品は大切にしてほしい。
- ・美術館建設に賛成。若い世代に興味がないのが問題。美術館の役割を伊豆市民に説明していくことが大切。
- ・ただ所蔵しているだけでは宝の持ち腐れ。見る機会を与えることが重要。まだ眠っている作品や無名な作家の作品、市民の作品を展示していくことも美術館の使命であると思う。
- ・美術館は必要。土肥の海藻おしばなども美術館にあってもよい。関心がない人や子どもにも興味を持ってもらうようなものが良い。
- ・新井旅館がキーワード。修善寺温泉に作るべきであると思う。
- ・下田市の開国博物館に行ったが、解説がわかりやすくて感動した。わかりやすい解説が受けられる美術館をお願いしたい。
- ・一日も早く修善寺温泉の近くに美術館ができることを望む。その間、美術品を収蔵庫で眠らせているだけでなく、なるべく良い美術館に貸し出しをお願いしたい。

質問：伊豆市美術館は仮称か？伊豆市立美術館なのか伊豆市美術館なのか？

回答：伊豆市が所蔵している美術品を展示する美術館という意味合いで仮称である。

何を発信していくのが大切。どういう名称にするのかも検討してほしい。

質問：今後もフォーラムを続けるのか？

回答：フォーラムは続けたいが、フォーラムという形になるかはわからない。社会教育課で意見を吸い上げるようにしたい。

質問：日本画の資産価値はどのくらいあるのか？

回答：美術品の価値金額ではない。

場所は修善寺も良いが旧湯ヶ島小学校の跡地でもよいと思う。地元が活性化するような美術館が良い。